大豆技術情報　第１号

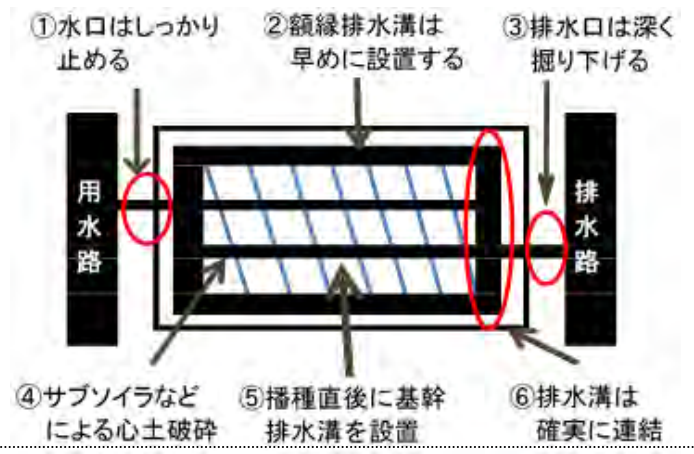
令　和　３　年　５　月
なのはな農業協同組合
富山農林振興センター

排水対策、土づくり、適期播種など基本技術を徹底し、収量・品質の向上を目指しましょう！

１　排水対策　～播種前から排水対策の徹底を！～

①用水路や水口からの漏水をしっかりと防止しましょう。
②額縁排水溝の設置や心土破砕を実施していない場合は、早急に実施し、ほ場の乾きを促しましょう。
（**額縁排水溝**は、**幅30cm、深さ20cm 以上**を目安に設置）
③播種直後に基幹排水溝を設置し、排水溝や深く掘り下げた排水口と必ず連結しましょう。
④播種後も排水溝の点検・手直しをするなど、ほ場に水がたまらないようにしましょう。

《排水対策の手順》



２　土づくり　～石灰質資材の施用で土壌 pH6.0～6.5 を確保！～

①土壌pHが低いと養分の吸収が抑制され、収量低下につながります。耕起前に必ず**苦土石灰を100～200kg/10a施用**しpH6.0～6.5を目指しましょう。
②地力向上のため、堆肥等の有機物を積極的に施用しましょう（表１参照）。

■表１　堆肥の施用量目安

種類	施用量(/10a)
牛ふん堆肥	1　～　2 t
豚ぷん堆肥	0.5　～　1 t
発酵鶏糞	100　～　200kg

３　病害虫防除　～種子消毒で病虫害の発生を防止！～

種子伝染性病害やフタスジヒメハムシ等の初期害虫の発生を防止するため、必ず薬剤の種子塗抹を行いましょう。

薬剤名	処理法	対象病害虫	使用上の注意
クルーザーMAXX	種子5kg 当たり　40 mℓ塗沫（乾燥種子1kg当たり原液8mℓを塗沫）	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類、ﾀﾈﾊﾞｴ、ﾈｷﾘﾑｼ類、ﾌﾀｽｼﾞﾋﾒﾊﾑｼ、茎疫病、紫斑病、苗立枯病、ﾘｿﾞｸﾄﾆｱ根腐病、黒根腐病	塗沫後、種子を十分に乾かす

４　播種作業　～耕起、砕土・整地、播種、作溝、除草剤散布までの一連の作業は1日で行いましょう！　～

①**極端に早い播種を避ける**など、**適期播種を徹底**しましょう。
②**土壌が乾いた状態**で**低速**で耕起し、**砕土率を高めましょう**。
③目標栽植本数を確保するため、播種機の目皿やスプロケットを調整しましょう（表２参照）。
④**播種深度は３cm程度**を目安とし、種子が露出しないようにしましょう。また、欠株を出さないよう、ゆっくり歩く程度の速さ(0.5m/秒)で播種作業を行いましょう。
⑤土壌や栽培に基づき、適正な基肥量を施用しましょう（表３参照）。
⑥除草剤の効果を上げるため、砕土率を高め、播種直後に規定量を均一に散布しましょう（表４参照）。

特に地力の高いほ場など、昨年**莢先熟が多発したほ場**は**6月上旬の播種**を！

砕土率高い（60%）

■表2　播種量等の目安（条間80cm、播種精度95%、苗立率90%）

品種	播種時期	目標栽植本数（本/10a）	播種量（kg/10a）	目皿式播種機 目皿	目皿式播種機 スプロケット 目皿側	目皿式播種機 スプロケット 車輪側	ロール式播種機 ロール	ロール式播種機 スプロケット 操出軸側	ロール式播種機 スプロケット 接地輪側	播種粒数（粒/m）
えんれいのそら	5月 25 日～6月上旬	14,000～16,000	**5.4～6.2**	B-2	10～11	13	白色	10	14	12～14
				B-22	14	9～10	黒色	11	13	
	6月中旬	16,000～18,000	**6.2～7.0**	B-2	9～10	14	白色	9	15	14～17
				B-22	13	10	黒色	10	14	
シュウレイ	5月 25 日～6月上旬	12,000～15,000	**4.6～5.7**	B-3	10～11	11	白色	11 10	13 14	11～13
					11	13	黒色	12 11	12 13	
	6月中旬	15,000～18,000	**5.7～6.9**		10	13～14	白色	10 9	14 15	13～17
					9	14	黒色	11 10	13 14	
オオツル	6月上旬	10,000～12,000	**4.1～4.9**	B-3	13	11	白色	12	12	9～11
					11	10～11	黒色	13	11	
	6月中旬	12,000～14,000	**4.9～5.7**		10	11	白色	11	13	11～12
					11	13	黒色	12	12	

※　播種量は、**大粒種子**（百粒重：えんれいのそら34．9g、シュウレイ34．4g、オオツル36．7g）で計算。
※　ロール式播種機のロールの溝（穴）数は、白色が8ヶ、黒色が10ヶです。

■スプロケットの位置

目皿式播種機

ロール式播種機

■表3　基肥施用量の目安　（kg/10a）

土壌条件	N成分	（例）BB084 施用量
砂壌土～壌土	3～4	30～40
埴壌土	2～3	20～30

注：麦跡の場合はN成分をそれぞれ2kg 多くしましょう。

■表4　除草剤（土壌処理剤）散布量の目安

除草剤名	散布量（/10a）
トレファノサイド粒剤 2.5	4～6kg
ラクサー粒剤*	4～6kg
ラクサー乳剤*	400～800ml（水 100ℓで希釈）
プロールプラス乳剤*	400～600ml（水 70～150ℓで希釈）

＊：散布直後の多雨により薬害を生じる恐れがあるので、天候を見極めて散布しましょう。